

一晩だけの小屋づくり。

「道祖神に、

めーらっせ！」

新年の夜、一晩だけ現れる小屋に子ども達が集まる。近くには電飾でライトアップされた人形も飾られ、子どもたちは家々を歩き回り、お菓子を配る。逆ハロウィン？
いいえ、道祖神のお祭りです。



右から世話役の椎野真貴さん、「向原東道祖神 参らっせ保存会」の椎野裕正会長、広沢工務店の広沢光洋さん、息子の広沢元紀さん。もうひとり、今回は仕事のため参加できなかったが例年は世話役として村川一広さんも参加している。



30分ほどであっという間に建っていく。ちなみに解体は15分でした。(左)神様をお祀りする場所なので、雲もちゃんと取り付ける。

朝8時、海沿いの国道一号、向原(むかいばら)の一角。建物が邪魔してまだ朝日が届かないその場所で、一晩だけの小屋作りが始まった。今日はこの地区の道祖神のお祭りである。

大工は近所の広沢工務店の広沢光洋さん。息子の元紀さんと、「向原東道祖神 参らっせ保存会」会長の椎野裕正さん、世話役の椎野真貴さんが、広沢さんの動きを伺いながらも、軽トラから下ろす資材を大まかな部位ごとに分けて置いていく。手際がいいし、お互いの呼吸もいい。聞くと三人は一学年ずつ違うものの、子どもの頃から近所に住む幼馴染みなのだそう。

小屋は組み立て式になっていて、そのむかし広沢さんの父親が作ったもの。「小屋は大工さんじゃないと、我々じゃ建て方がわからないんですよ」と真貴さん。なるほど、いざ広沢さんが組み立て始めると図面もなしに、あっという間に30分ほどで建ててしまった。思っていたよりもはるかに立派な小屋で、室内の広さは2畳ほどだが中には絨毯が敷いてあり、電気



橘南・向原
道祖神のお祭り
どんど焼きの風景